

# スマホ操作に 親切・丁寧な対策を



新井賢次



町長

様々な場所や機会を捉え  
支援する

**質問** 町は「デジタル化・オンライン化の推進等により生産性・効率性を高めた手法へと改善を図るデジタル・ガバメントを推進する」としている。まずは情報弱者への配慮が必要だ。最優先課題はスマートフォンを所有しているが十分に使いこなせていない町民（特に高齢者層）に町行政として使い方を習熟してもらうことである。「誰一人取り残さない町政運営」のために親切・丁寧な対策に取り組むべきだ。



スマホで自撮りも楽しい

**回答** 町長 今後、行政分野においてもスマートフォン利用が増えていくと思われる。様々な機能のうち文字の入力、アプリの起動、QRコードの読み取りなど基本的な操作方法を覚えてもらう必要がある。生涯学習課による高齢者向けスマホ教室開催等、様々な場所や機会においてサポートしていきたい。

**質問** スマートフォンを使用する、使えないことによる格差は伝達情報量の多少だけではない。例えば、今回コロナ禍の経済対策として町が行なったau Pay、PayPay利用による25%ポイント還元事業でも利用できなかった人がたくさんいる。県内には、スマートフォン教室開催を新規事業として予算確保している自治体、地域のデジタル化に携わる人材として地域おこし協力隊員を募集している自治体がある。スマートフォン教室の講師として

の活躍も期待しているようだ。玉村町としてどう考えるか。

**回答** 企画課長 地域おこし協力隊員募集時の検討材料にしたい。

**質問** 昨年6月の定例会でも、公共施設に対するネーミングライツの導入について提案した。コロナ禍の中、新たな税収確保策として、さらに多くの自治体が以前にも増して積極的に取組を始め、成果を上げている。

**回答** 町長 導入に当たっては課題がある。慎重に対応したい。

### こんな質問もしています

- ・町情報を確実に伝えるための情報発信体制について
- ・災害情報一斉伝達・収集システム(愛称…たまボイス)について
- ・玉村町子ども議会について

# LGBTQ+の方への 町の対応は



小林一幸



町長

生きづらさを解消した町  
をつくる

**質問** 県ではパートナーシップ宣誓制度を導入したが、町としての対応は。

**回答** 町長 当該の方たちの生きづらさが解消される町をつくっていききたい。また、誰もが普通に暮らすことができることが町づくりに、町の魅力につながる。と考える。



進まない同性パートナーシップ制度

**質問** 令和4年度施政方針について

**質問** 重層的支援体制整備事業の先駆的取組とは。

**回答** 町長 町が現在行っている「なんでも福祉相談」がその取組に該当し、重層的支援体制整備事業の「属性を問わない相談支援」に当たる。

なお、令和4年度より、群馬県内では玉村町を含め4市町村がこの事業に取り組んでいく。

**質問** 観光分野における行政の役割は。

**回答** 町長 観光に関わる支援と環境整備であると知っている。まず玉村町のことを知ってもらうことが必要であるため、知っていた「きつかけ作り」に有効である事業に取り組んでいく。

**質問** 新型コロナウイルス拡大に伴う対応について

**質問** 町が取り組んでいることは。

**回答** 町長 自宅療養者の増加に伴い、県と連携しながら、感染者及びその同居の家族に対して食糧などの提供・生活相談・安否確認等の支援を行っている。また、その他拡大PCR検査、感染予防策の周知等も行っている。

**質問** 防災に対する取組について

**質問** 地域防災計画・水防計画の見直しはいつ行うのか。

**回答** 環境安全課長 すぐに見直していかなければならないが、時期としては明言できない。令和4年度内にある程度の形にしていきたい。

**質問** 要配慮者利用施設の「避難確保計画」策定率は。

**回答** 町長 令和4年3月8日現在、医療機関を含めた対象98施設中97施設の策定が完了している。

**質問** 施設の避難訓練に対する町のサポートは。

**回答** 環境安全課長 担当課だけでは施設の全てをサポートできないので、関係課と連携してサポートしていきたい。